『朝がくると』

朝がくると
とび起きて
ぼくが作ったものでもない
水道で顔をあらうと
ぼくが作ったものでもない
洋服をきて
ぼくが作ったものでもない
ごはんをむしゃむしゃたべる

それから　ぼくが作ったものでもない
本やノートを
ぼくが作ったものでもない
ランドセルにつめて背中にしょって
さて　ぼくが作ったものでもない

靴をはくと
たったかたったか　でかけていく
ぼくが作ったものでもない道路を
ぼくが作ったものでもない学校へと

ああ　なんのために
いまに　おとなになったら
ぼくだって　ぼくだって
なにかを　作ることが
できるように　なるために

（詩人　まど・みちお）

なんかこの詩を読んで目からウロコが落ちるのを感じました!!
こんな風に想って毎日～毎日過ごすことが出来ればどんなに素晴らしいかと思います!!

私も現在54歳～子供さんたちから見れば、すごい大人になりますが私自身～今まで子供さんたちに誇れる何かを作ってこれたか、と思わず自問自答してしまいます!!

ただ最近、戦中～戦後を描いた小説、百田尚樹さんの「永遠のゼロ」や「海賊と呼ばれた男」を読ませていただいたのをきっかけに、生きている事の～仕事できる事の～家族と過ごせる事の～食べれる～動ける事などなど、今まで〝当たり前〟と思っていた事が実は奇跡的な事なんだと強く思えるようになった気がします!!

実際、54年間の人生で戦争に行かなければならないとか、生命の危険を感じたり～覚悟したり
した経験もなく過ごせてきました。

その事実だけでも、長い人類の歴史のなかで奇跡的な事と思い、**感謝の気持ちを持って「当た**
り前」と思っている事が「有難い事」(ありがとう)なんだと思い日々過ご
少しでも人のお役に立つような、人のお世話が出来るような人生を送

PS

長い夏休みも終わり、新学期を迎えられる子供さんたちにも
是非、この詩を読ませてあげて下さい!!